

倉吉市仲ノ町の倉吉幼稚園（西田直美園長）は13日、同園で園児の土踏まずの形成に向けて、運動や遊びを通じて実践してきた取り組みなどを披露する「自主公開研究発表会」を行う。心身の発達に必要な土踏まずに着目したユニークな研究で、成果は今後の保育現場に役立てることにしている。

（中部本社・八幡祥代）

2009. 6. 12

倉吉幼稚園で取り組み

土踏まずも育つ

履物との関連などを追跡調査した。園児たちには万歩計を付けさせ、歩数が少なければ運動を促し、「ビーダマ拾い」や「棒つかみ」

など足の指や全体を使った遊びも積極的に実施。土踏まずが形成していく様子を、足型測定して記録した。この結果、4歳児の土

踏まず形成率は、取り組み前が64%だったのが取り組み後は67%に、5歳児では63%が78%にアップしていたことが分かった。

園医である同市の小児科医の松田隆医師から、土踏まずの形成が不十分なことから姿勢の悪い園児が全国的に多いとの指摘を受け、足裏の発育などに注目した。

昨年4月から松田医師らを含めたプロジェクトチームで、土踏まずを形成しやすい運動や遊び、

園庭で元気に遊ぶ園児たち
倉吉幼稚園



遊ぶことや靴との関係

あす発表研究

松田医師は「歩くことで土踏まずが形成される」と話し、「靴の選び方もポイントがあり、3歳ぐらいまでは成長に合わせて少なくとも半年に一度は靴を替えるべきだ」と、靴選びの大切さを呼び掛けている。

当日は、「子どもの心身は足と歯がつくる」をテーマに、松田医師や金城学院大学の片瀬真由美教授らによるミニシンポジウムや、ワークショップも開かれる。同園では、これまでの取り組みをまとめた「研究の足あと」と題した冊子も作成している。